

プロフィール



ほしの とみひろ
星野 富弘

- 1946年 群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。
- 1970年 群馬大学教育学部保健体育科卒業。
中学校教諭になるが、クラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う。
- 1972年 病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める。
- 1979年 前橋で最初の作品展を開く。退院。
- 1981年 結婚。雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイの連載を始める。
この頃から全国各地で「花の詩画展」を開催。
- 1991年 東村に村立富弘美術館開館（現みどり市立「富弘美術館」）。
- 1994年 休止していた「花の詩画展」を、熊本県立美術館での開催を境に再開。負傷後初めて飛行機に乗って熊本を訪問。
以後ニューヨーク、ホノルル、ロサンゼルス、ワルシャワなど海外でも開催。
- 2006年 芦北町立星野富弘美術館開館。
群馬県名誉県民の称号を贈られる。
- 2011年 群馬大学特別栄誉賞（第一回）受賞。
- 2021年 富弘美術館開館30周年。
芦北町立星野富弘美術館開館15周年。
- 2024年 呼吸不全のため4月28日逝去（享年78歳）。

詩画やエッセイは教科書にも掲載され、詩は作曲され多くの人に歌われている。現在も全国で「花の詩画展」を開いている。

<主な著書>

「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「山の向こうの美術館」「種蒔きもせず」「いのちより大切なもの」「詩画とともに生きる」「あの時から空が変わった」「足で歩いた頃のこと」等

芦北町立星野富弘美術館

休止されていた「星野富弘 花の詩画展」が、1994年の熊本県立美術館での開催を境に再開されます。それが契機となり、その1年後に「星野富弘詩画がある芦北ふるさとギャラリー」が芦北町に開設。以後、交流が続くなかで富弘美術館（群馬県みどり市）の唯一の姉妹館として、2006年に「芦北町立星野富弘美術館」が誕生しました。当美術館は、星野富弘の詩画作品を常設展示しています。皆様には、星野の描く「いのちの尊さ・いのちの輝き」を感じていただければ幸いです。

開館時間・観覧料

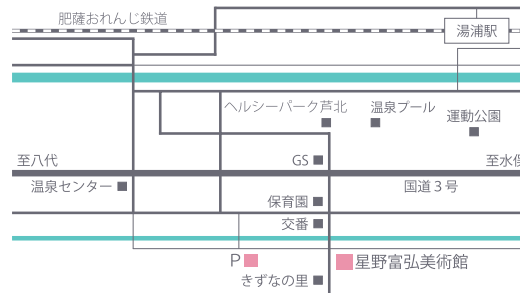
- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 第2・4月曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29日～1月3日）
その他燻蒸作業に伴う臨時休館有り
- 観覧料 一般 500円（400円）
小中学生 300円（260円）
幼児 無料
※（ ）内は20名以上の団体
※障がい者手帳等お持ちの方は半額
※学校の団体利用による割引有り

団体予約は
こちらから



交通アクセス

- 高速道路 南九州西回り自動車道
・「芦北IC」下車⇒星野富弘美術館 [15分]
・「津奈木IC」下車⇒星野富弘美術館 [15分]
- 電車 肥薩おれんじ鉄道
・「湯浦駅」下車⇒星野富弘美術館 [徒歩15分]
・「佐敷駅」下車⇒星野富弘美術館 [車10分]
- 新幹線 JR九州新幹線
・「新水俣駅」下車⇒星野富弘美術館 [車20分]
・「新八代駅」下車⇒星野富弘美術館 [車45分]
※肥薩おれんじ鉄道「新水俣駅」⇒湯浦駅 [15分]
※肥薩おれんじ鉄道「新八代駅」⇒湯浦駅 [55分]



※バス等の駐車については、当館までお問い合わせください。

芦北町立星野富弘美術館

〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町湯浦 1439-2
TEL: 0966-86-1600 FAX: 0966-86-1600
http://www.hoshino-museum.com



（姉妹館）富弘美術館・群馬県みどり市東町草木 96 TEL:0277-95-6333 FAX:0277-95-6100

芦北町立 星野富弘美術館



展覧会スケジュール

2024 - 2025

季節の常設展／特別展

季節の常設展では、四季をテーマとする作品の数々をご覧ください。また、特別展では、星野富弘の様々な詩画の世界をご堪能いただけます。

▶ 6.23[日] 季節の常設展「春・初夏」

富弘作品には、四季折々に咲く花や草木が描かれています。本展では、「チューリップ」や「麦の穂」など、春・初夏の草花を題材にした作品を紹介します。

6.25[火] ▶ 9.23[祝・月] 特別展「空の底」



「空の底」2009年

不慮の事故により、首から下の自由を失ってしまった星野富弘は、ただ天井を眺める生活を送らなければなりません。そのような生活の中で、星野は病室の窓から常に空を見ていました。本展では、「空」に焦点を当てた作品を展示します。

季節の常設展「夏」

「あさがお」や「盛夏」など、夏を彩る草花を題材とした作品を紹介します。

9.25[水] ▶ 12.8[日] 特別展「私の時計」

星野富弘は退院後の翌年から月に一度、11年間に渡り、新聞に記事を掲載していました。本展では、「籠とざる」や「とんぼ」など、新聞に掲載された作品を中心に特集展示します。



「籠とざる」1989年

季節の常設展「秋」

秋の草花を題材とした作品を紹介します。

12.10[火] ▶ 2025.3.9[日] 特別展「故郷へ」

私たちに、誰もが育ってきた“故郷”という存在があります。人によって様々な体験や思い出がありますが、星野富弘が感じてきた“故郷”について、作品を通して紹介します。本展では、「畦道の草」や「カントリーロード」など故郷を想起させる作品を特集展示します。



「畦道の草」1984年

季節の常設展「冬」

「福寿草」や「寒椿」など、冬の草花を題材とした作品を紹介します。

2025.3.11[火] ▶ 6.22[日] 季節の常設展「春・初夏」

本展では、春・初夏の草花を題材とした作品を紹介します。

2025.3.11[火] ▶ 4.27[日] 第18回星野富弘美術館 詩画公募展入賞作品展

第18回詩画公募展において選出された全ての優秀作品を展示します。全国各地から届く、一人ひとりの体験や感性が表現された詩画作品をご覧ください。



「川ガニ」
瀬上 敦斗
芦北町立湯涌小学校4年
小学生の部



「たとえ君が、帰らなくても・・・」
石田 結愛
熊本市立出水中学校2年
中学生の部



「母へ」
伊豆野 由美子
鹿児島県出水市
一般の部

※すべて第17回公募展入賞作品

詩画作品募集!

第18回星野富弘美術館詩画公募展

絵と言葉をひとつの画面に収めた詩画を、広く一般に普及させるとともに、地域の芸術文化の発展向上に寄与することを目的に、詩画公募展を実施します。一人ひとりの体験や感性から生まれるオリジナルな詩画の優秀作品を顕彰します。

応募期間: **12.1[日] ▶ 2025.1.31[金]**
応募規定: 出品者本人の体験や感性から生まれるオリジナルな詩画作品であること。

※その他詳細は、募集要項をご確認ください。
※募集要項は、チラシや美術館HP等に後日掲載します。